

## 第4回京都府食育推進懇談会 議事要旨

### 1 日 時

令和3年2月25日（木）午後2時から4時まで

### 2 場 所

オンライン（zoomミーティング）

### 3 出席者

【懇談会委員】9名

今里滋委員、熊谷幸江委員、小切間美保委員、小西秀紀委員、酒向美也子委員、佐藤洋一郎委員、田中まり委員、福井有紀委員、山下泰生委員

【オブザーバー】京都市

【事務局】関係職員

### 4 議 事

#### （1）報告事項

ア 第3回京都府食育推進懇談会での主な意見について  
（事務局から説明）

資料1

イ 国の第4次食育推進基本計画の動向について  
（事務局から説明）

資料2

#### （2）協議事項

ア 府民意見募集結果について

資料3

イ 第4次京都府食育推進計画の最終（案）について

資料4

（委員）様々な建設的な府民の方からの御意見に、これだけ注目して頂いているのだなと大変嬉しく思いつつ、書類に落とし込む作業がいかに大変だったかと本当に感謝申し上げます。私の専門分野である、食生活のことや学校給食のことに関する意見もたくさんあって、十分に反映して頂いていると思っております。

修正ではないのですが、コロナ禍の状況が1年も続いており、まだこれから先も続くという風に思われます。このような状況の中、貧困という問題は避けられない、ますます厳しいものがあるかという風に思いますので、そういった中で食をいかに守っていくかというところに配慮していかなければならないなと痛感いたしました。その点に関しまして、今後、具体的な運営の段階でということになろうかと思いますが、特に注意して関わっていく必要があるのだと自覚させて頂きました。

(座長) 京都食育ネットワークの代表を十数年やってきておりました、京都府の食育にも、計画にも最初の頃から関わらせていただいています。

一貫して課題となっているのは、食育あるいは食に関心がある方とそうでない方とのギャップが大きいことです。そして食に関心がある方はこの食育という取り組みに参加されやすいのですが、食に関心のない方は、なかなか食育に対して目を向けてくれないと。実はそういう食に関心のない方、無頓着な方こそが、食育の対象であって、そういう方々の食生活を変えていくという効果が期待されているということです。

食源病という言葉がありますように、生活習慣病が増加している背景の1つに食生活があります。特に糖尿病は食べ方とも関係します。過ぎですね。食べるものも、糖分が多いものや脂っこいものが多い食生活を送る事で糖尿病にかかりやすくなる。その結果、特に腎機能が打撃を受けて人工透析が必要な方は何十万人とおられて、そして日常生活が著しく制限される上に一人当たり600万円以上、年間で数十兆円の医療費が必要となります。逆に食生活が変わることで、健康な人が増えて生活習慣病も大いに減っていくはずですから、私は食育運動の推進というのは、このような国の財政を救う救国運動とも言える位置づけを持っていると考えています。

ですから、この食育ネットワークには90近い団体の方々が参加しておられますので、もっともっと、食に関心を持つ個人・団体が結集して、食によって、食を改善することによって、この国を救い、将来世代の負担を減らすことにもつながるといふ大きな視点や、そういうミッションを持って進めていかなければいけないとも思っています。

朝食の摂取とか主食・主菜・副菜が揃った食事とか、それだけ見るとありきたりのスローガンみたいですが、実はこれが今言ったようにこの国を救い、変えていく、そして将来世代に負担を残さない、我々現役世代の大きな役割ではないかなと思っております。

そういう意味でも、この第4次食育推進計画は非常に重要な計画になっていくと思います。そして、この計画を計画に終わらせることなく、もっと実効的な計画にして、そして、できれば全府民の皆様がこの食育推進計画というのを知っていただく、その上でこの食育推進計画のポイントを実行していただく、そういう言わば効果のある実践ですね、役に立つ計画になっていけばと思うところでございます。

(委員) 本当に大変な作業をされたなという風に、私もつくづく思いました。その上で、気になる点が2つ3つありますので、申し上げたいと思います。膨大な計画だと思うので、5年間でこれをどういう風に進めていくかというロードマップみたいなものがないと、どこまでできるかと漠然とした不安みたいなものを感じるのが1点です。

2番目に申し上げたいのは、この計画をと読んでいて、特に「はじめに」の部分を見て思ったのは、京都府という言葉为例え、兵庫県と替えても困らないよ  
うという印象を持ちました。京都府でこの計画をやるんだ、あるいは、なるほど  
京都府の計画だなというよなところが、もっと強烈に出てもいいのではないかと  
感じました。せっかく食の都な訳ですから、京都府としての強みが生かされ  
た、そのことが分かる書き方になるのがいいかなという気がしております。

「はじめに」の最初の2段落目の赤で書いた①と書かれた部分ですが、このこ  
とは1段落目のことと関係があり重複感があるので、この1段落と2段落目の文  
章を整理して頂いて、それで言葉としてもインパクトのあるものに直していただ  
けないでしょうか。勝手なこと言っているとことは重々承知の上で申し上げてお  
りますけれども、その3点が気になりました。その他のところは何も申し上げる  
ことは無いと思っております。大変にご苦労様でした。

(座長) 確かに一つの段落にまとめられないことはないような感じもいたします。  
あと京都らしいというところですが、これを「さすが京都だな」という計画にす  
るために、佐藤先生何かいいお知恵はありませんか。

(委員) また考えて御返事したいと思っておりますけれども、ちょっと時間をください。

(委員) 何より、これだけたくさんの御意見が集まったということ自体にびっくり  
と感動、というのが正直なところですが、先ほど御発言もありましたが、これだけ  
注目して頂いているんだと言うことに身が引き締まる思いがいたしました。事務  
局に感謝申し上げたいなという風に思います。それぞれ府民の視点が適切に反映  
頂けているという風に受け止めておりました、私としましてはこれでいいのでは  
ないかと思ったということです。

(委員) 全体を見せていただいて特に意見はございませんが、私が感じたことを申  
したいと思っております。第4次食育推進計画(案)を見ましたとき、まずはとても明  
るい印象を受けました。そして多数の本当に関心の高い貴重なご意見が集まった  
ということ、それを事務局の方々がうまくとりまとめていただいたことに対し  
て、本当に感謝しております。全体を見せて頂きますと、用語集の充実であるとか、食に関する Web サイトの一覧など、本当に工夫もなされていると思っていま  
す。

今回私どもの会といたしましても、この計画の中に「管理栄養士」という文言  
を入れて頂いたことは、とても意味のあることと受け止めております。今後、先  
ほどの委員のお話の中にもありましたが、ただ計画に終わらずどういう風に実行  
していくかというところに大きなこれからの課題があるかと思っております。

その中では、様々なライフステージにおいて、私たち栄養士会の会員、管理栄養士であるとか栄養士が、府民の方々の意識をさらに高めていくことが大きな課題と受け止めております。食育推進にあたり、私たち自身も意識を高めて取り組みたいという風に感じました。

(座長) 管理栄養士さんの食のプロフェッションとしての役割というのは、これからますます重要になってくるのではないかと思います。できれば各家庭に1人管理栄養士さんがついて、オーダーメイドで細かく家庭の食事を分析してこういう風にしたらいいですよってというような、パーソナル管理栄養士みたいな方がいてもいいんじゃないかと思うくらいです。

これは、実現不可能なことではなくて、やれることじゃないかなと思いますし、家庭によっては管理栄養士さんに頼みたいという方もたくさんいらっしゃるって、一つのビジネスになるのではないかと考えています。また、栄養士会としてもそういう新しいソーシャルビジネスを考えていただければと思います。

(委員) 管理栄養士、栄養士がどこにいるのかということから始まって、まだまだ地域に根付いているところが薄いかなと感じております。先生がおっしゃるように、今後地域のどこにいるかということ「見える化」させて頂いて、そこで気軽に食に対して質問できたり、答えたりということが、今後求められることかなとっておりますので、そういう方向も考えていきたいと思っております。

(委員) 本当に上手にまとめていただいているなという印象です。先ほど京都府らしさというお話がございました。

これについては地場産物という視点、今回の推進計画でも後ろに資料をつけていただいています。これが最近、学校などの教育現場ではよく読まれている学校教育新聞でも掲載され、地場産物について、今までも大切にしてきたんだけど、自然・文化・産業などへの理解、食への感謝の念の育成などの上で重要であるとの内容でした。

そして食料輸送に伴う環境負荷の軽減にも役立つとの意義が加わったという風に文部科学省が通知をしています。そういう意味では先ほどの「食への感謝」というようなことを幅広く取り入れていただいたというところも画期的で、ものすごく考えていただいた内容の計画案だと思います。

もう一度、地場産物の話に戻りますと、学校給食でも例えば、宇治茶の粉末を使った唐揚げであるとか取り入れているんですね。そして、献立表の裏に家庭でもできるメニューレシピみたいなものを栄養士さんが作っておられます。

そういうものをこの計画の中に、詳細に文字化することはできないかも分かりませんが、そういうことをこの間言いましたように学校給食研究会などの行政

説明のような場でまた広げていただけたら、もっともっと推進計画が実効性のあるものになるのではないかなと思っております。

(委員) 私もこの最終案は見やすく分かりやすくていいなと思いました。

後ろにあるサイトの一覧や、京都府の主な農林水産物がイラストで書いてある所など、子どもが見ても、すごくわかる感じでいいなと思いました。

先ほど出ていた、関心がない方こそ食育が必要ということに関して、いつも私がしていることの見解ですが、私が学校に行かせてもらって常に思っていることは、児童から家庭へ持ち帰ってもらって、そこから食育を子どもさんから親御さんにしてもらうことを常に意識しています。

やはり親にとって子どもの影響はすごく大きくて、親を動かすには子どもからのアプローチが大事と思っています。子どもが食べたいというものを母親たちは作りたいと思うし、それをまた子どもが食べて美味しいとなったら、両親も嬉しくて子どもも、またさらに嬉しいという風になって、家庭の中で嬉しいという輪が広がって行って、その食材を好きになるという経験を私の周りで、沢山されているのを実感しています。

私は学校で子ども達に食育をさせてもらっていますが、別の側面から考えると、今は子ども達は、YouTube が好きで見ているので、そういう人気 YouTuber の人たちがちょっと食育に絡んだ何かをやってもらうと、そこから影響して行って子どもたちがお母さんたちにこんな料理をして欲しいとか、朝ごはんはこんな風なものを食べてみたいとかいうことで、親御さんも食育に興味を持たれるのではないかとも思います。

お父さんも料理をすることで食育につながっていくと思います。なかなかお父さんが料理するというのは難しいように思いますが、男の人はきっと楽しかったり、趣味のところから、料理って楽しいっていうことを知ってもらうことで、お父さんが料理して、みんなで食べる、これも食育かなと思います。

給食での地場産物の活用については、栄養士さんとの繋がりが大事だと思いますし、その地域で採れた野菜を使いたいと学校側も思われても、どうやって、生産者と学校の栄養士さんとの繋がりができるかというのは課題なのですが、

「誰々のおじいちゃんの作った野菜が今日は給食で出ます」とか言うと、今まで何の興味も無かったお野菜も、あの子のおじいちゃんが作っとったお野菜、あの子のお母さんが作ったお野菜やったら美味しい、と一瞬にして変わるんです。

自分が知っている人が作ったお野菜を食べるだけで、今まで味がしないと思っていた野菜が急に美味しくなったりするという体験を子どもたちはするので、そういう点でもすごく意味があると思いますし、子どもたちが、興味を持つ1つのアイテムとしていいなあと思いました。今後もそういうことに基づいて食育を広げたい、輪が広がっていったらいいなと思いました。

(座長) 確かに子どもたちにとって、YouTube もそうですし、漫画もそうですし、そういう媒体を通じて観念が広がっていくと思います。この食育計画を子どもがつぶさに読むということは考えにくいですし、そういう普通の人々が日頃接しているメディアを媒介にして広がっていくという方向もあるのかなと思います。

例えば、「クッキングパパ」という漫画がありますね。著者は、私の昔からの友達なのですが、彼がこの漫画を書くことによって、お父さんの間で料理が1つの憧れの趣味みたいになって広がっていったことがあります。食に関する様々な漫画もありますし、そういうメディアとの連携は大事かなと今の委員のお話からひしひしと感じました。

(委員) 計画案について、先ほどから皆さんおっしゃっておられるとおり、修正意見はありません。私たちは生産という観点でこの計画を進めるに当たって、生産者の方々とどういふ風なことを伝えていけば良いのかということを考えながら、これからの5年間取組が進められるよう微力ながらも協力していきたいなと考えました。

1つお願いというか、35、36 ページに京都府の農林水産物、野菜や魚やお肉やお茶を分かりやすく説明頂いている参考資料の中に「米」が目立たないのがさみしいなと思いました。計画の中でお米という言葉が出てこないですけども、やっぱりバランスを考えて食べるっていうのには米も重要なんじゃないかなっていう風にも思いますし、せっかく沼田部長の後ろにも「京式部」のポスターが見えてますので、このページに無理であればホームページで推進計画を掲載されるとき京都でとれる農林水産物の中に主食として食べる米の紹介とかもあっても良いんじゃないかなと思いました。

(事務局) わかりやすく、工夫します。

(座長) 京都のお米も美味しいですね。

私も京丹後市で畑を借りて学生たちと一緒に酒米の「祝」を作ったことがありまして、竹野酒造に依頼して美味しいお酒ができました。米ってこんな素晴らしいんだということで学生たちも感動してました。

(委員) 取りまとめありがとうございました。私の方から2点申し上げたいと思います。1点目は先ほど委員からもご指摘があったんですが「はじめに」のところで、西脇知事の御名前で出されるということであれば、私もやはりもう少し京都府らしい内容を入れるべきではないかなという風に感じました。特に皆さんご存知のとおりユネスコの無形文化遺産に和食が指定されたわけですから、単に多様な食材とか栄養バランスとか、そういうことも大事なんですけど、季節感とかいわゆる伝統行事・年中行事との関連とか、そういう点から見ると京料理、その中

でも京都の和食っていうのはより色濃いものになるんじゃないかなという風に思います。パブリックコメントにも出ていましたように、丹後の魚から丹波の牛肉であったり宇治茶であったり様々な京都の食材、そういう豊富な食材が京都にあるということも含めて、そういう点もこの辺に記載されてもいいのかなという風に感じました。

もう1点は、素晴らしい中身、内容でとりまとめ頂けたと思っています。ただこれも非常に大事なのですが、実際にこれをどうやって実行していったら、この目標に到達できるようにしていくのか、ということがさらに重要だと思いました。ただ非常に幅広いテーマがありますので、本当にこれは大変だなと感じました。

例えば、朝食の問題でも、若い世代で5人に1人が食べてないということで、うちの会社でも昨年秋頃のコロナが少し落ち着いた頃に、少人数に分けて研修所で一泊二日の新入社員研修をしたのですが、朝ごはんを食べない人がいますね。それも会社がちゃんと研修所で用意しているにも関わらず「習慣がないから食べません」という人たちを、一体どうやったら、話をしても何しても無理かなど、そんな絶望感すらあったんですが、そういう人たちに、今回こう掲げていただいていますので、どうやって伝えていくのか、その行動の変革、変容をおこして頂けるようなそういうことが本当にできるのか。

先生もおっしゃったように本当に人間は動物ですから、口から入るものをどのタイミングでどんなものをどれだけ食べるかが全てなんで、そういうところをどうやって理解していただけるように広報していくのかとか、地道な作業になるとは思うんですが、是非せつかく立てた計画、目標ですので達成できるようにぜひ頑張ってもらって私も含めてやっていきたいなと思いました。

(座長) ここで欠席の委員からの御意見をご紹介します。

- ・ 梅地委員から、最終案は全体的によくまとまっており良いものを作っていたと思いました。特に基本理念「つなげる京都。つづける食」は、京都の中での繋がり、生涯にわたっての繋がりが表現されており良かったです。その他、表紙の色が爽やか、写真付きの事例紹介は計画の内容が想像しやすくなり見やすくなりました。食生活改善推進員活動の事例を紹介いただきありがとうございます。聞き慣れない言葉も用語集で分かりやすく記載されていたとのご意見。
- ・ 黒田委員からは、ICTの効果的な活用についてのご意見を、動画で情報提供いただきました。ポイントとしては、積極的な情報の交流が大事。その時に子ども達の主体的な参加を誘導できるような取組にすること、またいつでもどこでも誰でも見れる環境にしていくこと、そのような環境の継続には、動画コンテンツの持続的な充実に向けて取り組むべきとのご意見をいただきました。

(委員) 先ほど、今後、経済的に厳しくなっていく中でどうやってこれを実現していくかということに触れさせていただきましたが、そのための1つとして、やはり、地域のつながりというところかなと、地域でつながって助け合うみたいな、昔ながらのことになるけれども、そういう仕組みを大事にしていくということが京都府として必要なことなのかもしれない。もちろん今もそういう形で、食に限らず取り組んでくださっているということは重々分かっているつもりですし、抽象的ではありますが、色んな所でそういう仕組みが大事と感じました。

先ほど委員がおっしゃったご意見で、確かに京都らしさっていうところですよ。この懇談会で「京都から発信！」みたいなのがあったらいいんじゃないか、キャッチフレーズみたいなものがあるといいかなと思った事を思い出しました。

「はじめに」のところ、京都のキーワードを入れていくというのはすごく大事で、委員のご意見も入ったら、京都らしさが出てとてもいいなと思います。

まずは、表紙の「つなげる京都。つづける食。」をもっと大きく書いてもいいのかなと、こんなに遠慮がちに小さくしなくてもいいのかなと思ったんです。

「つなげる」とか、「つながる」とかっていうところから、やっぱり食を守る仕組みは、行政が何かするだけじゃなくて、隣近所が助け合うみたいな雰囲気を作っていくという空気感を府の方で仕掛けていただくということもいいかなと思っています。私個人としても、ある中学校でまたちょっと色々食育活動を4月から始めるつもりなので、そちらも地道に頑張っていきたいなと思っています。

(座長) 京都らしいコンセプトというかキーワードというか事例ってありますよね。例えば NHK の教育テレビに「趣味どきっ！」という番組があるんですけど、様々な生活上の話題の一つとして、京都の「しまつ」の料理が取り上げられました。「しまつ」の料理、つまり残った食材で手軽に、タイムリーにおかずとか酒のあてを作るといって、食品ロスをできるだけ出さないまさに SDGs 的な習慣です。こういうのは京都の人は連綿として行ってきたわけで、こういう「しまつ」の料理の伝統とか観念とかあるいは環境倫理観みたいなものというのは現代に普遍性を持っているわけで、こういう観念を持ち出していくと「さすが京都やなあ」というようなことにもなるんじゃないかと思っています。

おぼんざいもそうですが、これは食事バランスガイドそのもののようなバランスがとれたものですし、季節季節に食べていくものにしてもミネラルが豊富な海のものをおぼんざいの中に入れていくわけですから、懐石料理とかそういう派手な料理ではなくてまさに京都の人々が連綿として歴史的に受け継いできた食の知恵みたいなものが、まだまだ発掘されずに残ってるんじゃないかなという感じがしていますので、我々食育ネットワークとしてもそういう京都らしい食の知恵や繋がりをもっと発掘して世に広めていければなという風に考えております。



(委員) 最近、食品原料の原産地のことが話題になりますので、私は水飴の原料の産地を調べてみたんです。というのも、水飴は和菓子の原料として、例えば餅に混ぜて求肥にしますけれども、今使われている水飴はほとんど大麦を原料にしているんですね。ところが大麦は9割が輸入なので、あの綺麗な京都の和菓子も、原料の原産地をたどっていくと、京都産どころか国産でもないものが多く使われているんです。

それはやっぱり困ったことなので、これからはそういう目に見えないような色々な原材料に至る細かいところでもって我々は京都産、少なくとも国産ということを考えざるを得ない時代が来ると思います。

それから、コロナを見ましても、ポストコロナの時代で生き残っていける1つのやり方として、単なるローカルではなく、めちゃくちゃ小さな範囲のローカルですね、超ミクロとか超ローカルとか言ったら良いと思うんですけれども、そういうようなところがこれから生き残りやすいのではないかと、例えば仕出し屋さんみたいなああいう生き方ですよね。これも京都のすごく伝統的な生き方だと思いますので、そういうようなことに光が当たるような施策を考えていただくということも、持続可能な食のあり方を考える上ではすごく大事になってくるような気がしています。

(座長) これまで4回に渡る懇談会が開催されまして、その中で委員の皆様から非常に多くの御意見を頂きました。おかげさまで第4次京都府食育推進計画(案)が出来上がりました。本当に大変だったと思うので、事務局の御苦勞を称えまして、進行を事務局に戻したいと思います。

(事務局) 座長には、進行をお世話になりました。ありがとうございました。また各委員の皆さんからは大変貴重な御意見を頂きましてありがとうございました。計画の内容自体についてということでは、「はじめに」のところ、京都らしさ、京都の強みをしっかりと書いていったら良いのではないかと御意見ですとか、せっくなのでお米も入れていったら良いのではないかと御意見もいただきました。また計画を作っただけでなくていかにうまく進めていくか、実行していくかという中では、やはりロードマップ的なものがあるんじゃないかという御意見ですとか、実施にあたっての色々な工夫があるんじゃないかということで、例えば貧困の中での食生活の守り方であったりとか、関心のない方へのアプローチの仕方、さらには地場産物をいかにうまく使っていくかということですか、あるいはまず児童から家庭へアプローチしていくことによって関心の無い層の関心を高めていくことも重要じゃないのかとか、実施にあたっての貴重なご意見も大変多く頂きました。そのところをしっかりと取り入れて、今後の計画や実施に反映していきたいと考えております。ありがとうございました。

それでは閉会にあたりまして、沼田農林水産部長から御挨拶を申し上げます。

(事務局) この間、色々と御意見を頂戴いたしまして本当にありがとうございました。皆様方から、うまくまとまっているというコメントを多く頂戴しました。本当に事務局のメンバーは大変苦勞していましたので、本当にみんな喜んでいていると思っています。もう少しこうしたら、という御意見も頂戴しました。

農政課長がまとめておりましたが、より良いものにする最後の味付け、これが大切だと思っていますので、バージョンアップをした上で最終の案として公表したいと思っています。最初に申し上げましたとおり3月の末に公表させて頂いて4月1日の令和3年度からこの推進計画をバイブルとして食育の推進に努めていきたいと思ひます。当然ながら毎年、推進の状況や達成状況を点検しながら、委員からも言っただきまして、広報も工夫しながら進めてまいりたいと思っております。

途中で、座長から食育は国を救う、変えていく計画にもなると、それからまた将来世代の負担を軽減するのに役立つものだというお言葉を頂戴しました。こういった高い意識を肝に銘じて進めていきたいと考えております。またパブリックコメントでも多くの意見を頂戴しました。今回のコロナ禍で、我々は本当に新しい生活様式で変化を余儀なくされていく形になります。特に食生活というもので、見直さなければならぬと思っております。

最近、知事がよく申しておるのですけども、ポストコロナは、以前の生活に戻るのではなくて、色々なことを点検して、そして改善することによって、よりよい社会にしていく必要があるということをよく申します。そういった話をする中で、よく「絆」という言葉をよく言ひます。我々も、今回「つなげる」とか「つながる」とかいう言葉を使っただきとしておりますので、こういったことも含めて今後進めていきたいと思ひます。

府民、市民の方々が、本当により良い食生活をしていっただきのために、またこの推進計画の実現のために、きめ細やかな施策や運動を進めて参りたいと考えております。委員の皆様にはどうぞ御協力、御支援を引き続きお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

最後になりますけれども、今里座長はじめ委員の皆様方には、ここまで様々な観点での御指導を頂戴しましたこと、心から感謝申し上げまして、閉会の挨拶と代えさせて頂きます。本当にありがとうございました。